

3 回目、10 日間の「共同支援センター」活動を終えて

2024 年 8 月 1 日 五十嵐完二 (Face Book より)

7 月 25 日。

輪島市門前町の仮設住宅に向かう途中の「のと里山海道」。

両車線開通したばかりとはいえこうした場所がまだまだあります。東京から来た猪熊さんが運転していたので写真撮れました。

昼頃にかけて能登半島も豪雨となり土砂崩れの危険もあったのでやむなく引き返しました。



7 月 25 日。

能登半島の先端の珠洲市蛸島小学校グラウンドにある仮設住宅を訪問してお米と水、生活用品をお渡し。珠洲市の鵜飼漁港から海岸沿いの道路を正院、蛸島と回りました。多くは地震で倒壊したままでしたが、重機が入り、解体撤去も少しずつ進んでいる状況も感じられます。



7月26日。

《ワンタッチテント導入》

午前中、七尾市田鶴浜定住促進住宅跡地にある45戸の仮設住宅を訪問。写真のように導入したばかりのワンタッチテントが活躍しました。

お米や水、生活用品をテントでお渡しして、その後訪問してお困り事などを聞いてまわりました。解体撤去に関する相談、仮設住宅を出たあとの公営住宅の要望などが出されました。ひとり住まいの人は「人と話したいから出てきた」と話しました。



7月26日。

午後からセンターでお米の3キロの小分け作業。ダンボールで作った小分け道具(東京いのくま製、写真上のメガホンのようなやつ)で作業が断然はかどっています。



7月26日。

昨日、珠洲市の仮設住宅に行ったが、その前に見附島近くの鵜飼漁港に寄った。能登半島地震以前から使われていない港の小屋を見たら、写真のような「原」「発」「絶」の古くなった大きな看板が。珠洲市のみなさんが反対運動で頑張った記録でした。もし珠洲市に原発が建設されていたら今度の地震でとり返しできないことになっていたことは間違いありません。



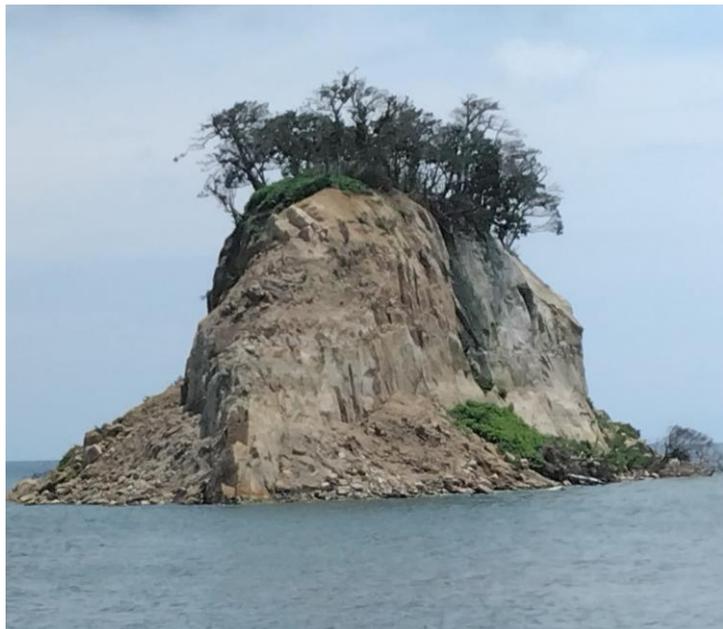
7月28日。

《ガンバレ見附島》

先日お米などの物資のお届けで訪問した珠洲市、蛸島の蛸島小学校グラウンドの仮設住宅。昨日センターに「土日しか居られないので是非来てほしい」とリクエストの電話あり。

今日早速訪問すると、「遠いのにすぐ来てくれて神様のように」と大歓迎された。

その時に撮った名勝の見附島。崩れたところもあるけど、ガンバレ！



7月29日。

今日も中能登町の2カ所の仮設住宅を訪問。羽咋の被災者共同支援センターのメンバーはやさしい。



電話で仮設住宅に入居している被災者から「左利き用の草刈り鎌はありますか」との問い合わせに羽咋市のホームセンターに探しに行って届けるという対応をとったことがありました。

写真はセンターの近くから見える田んぼと宝達丘陵で、この丘陵を越えると富山県氷見市。

2024年7月30日。

輪島市の2カ所の仮設住宅にお米や水、生活用品などのお届け。今日は大阪から高校生3人が参加し若々しい訪問隊に。

輪島港の目の前の仮設住宅の入居者は道を挟んですぐの海士町(あまちょう)の人達。生活道路が倒壊建物にふさがれていることなど現場で説明を受けた。

3人の高校生は、物資運び、被災者の困り事聞き取りなど大活躍。

その後行った朝市通りはひと頃よりはずいぶん片付いていた。(表紙写真参照)



8月1日。

7月22日から7月31日まで羽咋市の能登半島地震被災者共同支援センターで活動した。5月、6月に続いて三回目。今回も仮設住宅入居者にお米や生活用品などのお渡しなどで、輪島市、珠洲市、能登町、中能登町、七尾市をまわった。最後の昨日は、千葉県柏市議と輪島市門前町や七尾市の被災地をまわった後、それまで宿泊していた羽咋市から金沢駅前に戻った。金沢市は、観光客も多く能登半島の被災地とは別世界の感じだった。

輪島港に張りつくように作られた海士町などの住民が入居する仮設住宅の人は、「他の県でも水害などいろいろな被害も出ている。能登が忘れ去れないか心配」と話していた。



未だに、仮設住宅にも入居できず避難所や被害を受けた家や納屋での生活を余儀なくされている人、仮設住宅に入居できても買い物や通院に不便だったり、狭くて物を置く場所がなかったり不便なことは多い。そして、壊れた自宅等の解体も必要で、さらに仮設住宅入居の期限後の住居の問題も大きな心配になっている。



被災地を見て被災者から話を聞くことが引き続き大事になっている。

写真は、昨日視察した輪島市門前町の鹿磯漁港と総持寺祖院。

また、黒島漁港も隆起して漁港内にはまったく海水がない状態になっている。

志賀原発の5キロ圏内には複数の断層があります。ほとんどテレビ等で報じられていませんが、これらの断層の近くで地割れや歩道の盛り上がりが複数発生しています。

北陸電力はこれらの断層のうち約半分は「活断層ではない」と主張していますが、ではなぜ今回の地震で地割れや地表の盛り上がりが起きたのか？専門家による調査と住民への情報開示を求めています。（写真は「しんぶん赤旗」7月30日付）

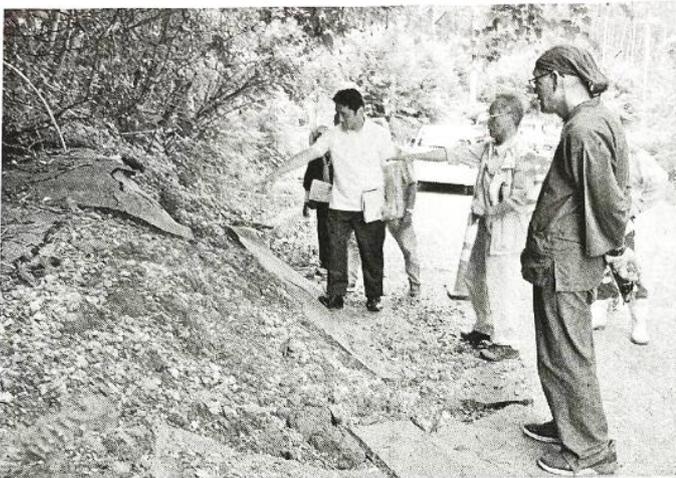
(第3種郵便物認可)

能登半島地震

地殻変動影響解明を

藤野^{比例}候補ら、断層調査

石川・志賀原発周辺地割れや隆起



志賀原発周辺の現地調査に参加する藤野（左端）、立石（その右）各氏ら。28日、石川県志賀町

日本共産党の藤野やすふみ衆院北陸信越比例候補は28日、立石雅昭新潟大学名誉教授とともに志賀原発周辺の断層を調査しました。能登半島地震によって志賀原発周辺の断層にどのような影響があるのか調べました。佐藤正幸県議、中谷松助志賀町議らが同行しました。

志賀原発の5キロ圏内には、複数の断層が存在しています。能登半島地震によって、これらの断層の近くで地割れや歩道の盛り上がりや複数の発生しています。北陸電力はこれらの断層の約半分は「活断層ではない」と主張しています。

「和光台南の断層」

付近の台地では、深さ1メートル以上、長さ数十メートル以上の地割れが発生していました。斜面側の歩道が、長さ数十メートルにわたり大きく盛り上がり、舗装が剥がれ落ちています。舗装面の下に敷き詰められた小石群が縁石を越えて滑り落ちていました。立石氏は、地震断層

として地表に亀裂や断層が生じたわけではなく、「地下に伏在する断層に沿って、歩道に沿って地表部分が盛り上がり、歩道に損傷を与えた」と推測しています。

立石氏は、「和光台南の断層」は志賀原発の敷地5キロ圏内の断層であり、北陸電力はその活動性を否定しているとしつつ、「能登半島地震の震源から遠く離れた断層が活動した可能性がある以上、北陸電力ならびに原子力規制委員会は、その変状をつぶさに観察、検討しなければならぬ」と指摘しました。その上で、「この地域全体の地殻変動が今回の地震でどういう影響をうけたのか明らかにしないと志賀原発の安全性の議論はできない」と述べました。